学校だより
令和２年度　１０月号 NO．６
令和２年　９月３０日（水）
東渕江小学校　校長 西澤　武

東渕江小の子供たちに「ま・ほ・う」をかける

校長　西澤　武

前期も残すところわずかとなりました。児童も小学校での生活のリズムをしっかりと取り戻し、勉強に運動に一生懸命取り組んでいます。特に、１年生はようやく学校生活にも慣れ、小学校生活の新しいルールや学習の仕方の習得に元気に取り組んでいます。

何事にも一生懸命に、そして自分にも他人にも優しく接する子供たちの多い東渕江小学校ですが、更に「やさしい子」「げんきな子」「かんがえる子」の育成を目指し、笑顔あふれる東渕江小学校にしたいと思います。そのためには、子供たちに**「ま・ほ・う」**をかけていきます。その**「ま・ほ・う」**とは、

○**ま：まかせる**（自己決定の場を設ける）
子供たちに自己決定の場を設け、他者との関わりの中で子供たちが判断力を高め、責任ある行動がとれるように支援すること。そのためには、子供たちに考える時間をしっかりと確保し、何でも教師や親が決めるのではなく、子供たちにまかせてみることが大切です。

○**ほ：ほめる**（自己有用感を高める）
子供たち一人ひとりが自己有用感をもつことができるような工夫が必要です。自己有用感の基盤となるのが、自分が認められ、褒められた経験です。一日一回は声をかけて、どんな小さなことでも良いのです。その子の考えや行動を褒めて、その子の存在そのものを認めてあげましょう。

○**う：受け止める**（共感的人間関係を育む）
個別の指導にあたっては、教師や親と子供たちの間に、共感的人間関係が存在することが必要不可欠です。まずは子供たちの話をしっかり聴いて、一緒に遊んで、子供たちの気持ちを受け止めましょう。そして、行動や彼らの頑張りの結果を一緒に受け止めましょう。

教育活動の最大の目標は子供たちの自己肯定感を高め、「生きる力」を育成することにあります。子供自身が自らの良さを理解・評価し、それを将来にわたって伸ばし、社会において自己実現できる能力のことです。

これからも学校だけではなく、保護者・地域の皆様と一緒に子供たちに**「ま・ほ・う」**をしっかりとかけていただき、学校・家庭・地域が一体となった東渕江の教育を進めていきたいと思います。今後とも東渕江の教育にご理解・ご協力のほど、よろしくお願いいたします。